

令和7年度母子保健領域における 心理職との連携を図るための研修会 ～心理職による妊産婦の事例提示を通じて～

と き 令和8年3月22日(日) 10:00～12:00

ところ 山口県医師会6階 会議室

(Zoom「ウェビナー」を併用したWeb方式併用)

[報告：常任理事 河村 一郎]

2年前から始めた心理職との連携を図るための研修会で、下記2例の提示を公認心理師の先生にいただき、スーパーバイザーの野田稔子先生にコメントをいただいた後、参加者でディスカッションした。今回は周産期に心理的な症状を来した妊産婦の2例で、心理師、保健師などが介入して快復した症例であった。参加者は現地22名、Web 45名で、医師18名、心理師8名、保健師24名、助産師8名などであった。こういった心理的な不安を持つような妊産婦には多職種での介入が必要と考えられた。

座長：山口県医師会母子保健委員会

委員 佐世 正勝

スーパーバイザー：山口大学医学部附属病院

精神科神経科 野田 稔子

事例提示

1. 「周産期に強迫症状を呈した事例」

山口県立総合医療センター臨床心理部

公認心理師／臨床心理士 坂本 泰啓

妊娠中に糖尿病になった女性が出産後、耐糖能が正常化したにもかかわらず、血糖上昇の恐怖から、うつ、食事を摂ることに対する恐怖、食後の過剰な運動(強迫症状)を来した。心理師の介入、カウンセリングにより、次第に快復していった。

2. 「不妊治療を経て双胎の切迫早産になった女性への心理的サポート」

山口県スクールカウンセラー

公認心理師／臨床心理士 高津あゆみ

不妊治療を経て双胎を妊娠し、切迫早産にて入院。眠れない、動けない、好きなものが食べられないことから、不安、ストレス、不満、イライラなどあり、保健師、心理師が介入。出産まで毎週カウンセリングして快復し出産。産後も授乳の不安などあり、9日目までカウンセリング。宿泊型産後ケアも行った。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)

TEL 0836(34)3424 FAX 0836(34)3090

[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>

新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。